

令和6年度（一社）隠岐ジオパーク推進機構 事業報告書

1. 基本計画策定事業 (2,070千円)

(1) 保全計画策定

目 的 : 計画的な保全・保護事業の実施、再認定での推奨事項への対応

ゴ ー ル : 保全計画に基づいた事業の実施

内 容 : 専門家及び関係者による検討会及び現地調査を踏まえて保全計画を策定する。

実 施 : ①サイトカルテの様式更新

状 況 昨年度に試行的に行った調査結果と地域内関係者からの意見をもとにサイトカルテの様式を更新した。

②事業説明会の開催

各組織内での担当者の明確化や保全計画策定作業に伴う体制の整備を図るために、4島の役場、教育委員会、観光協会、認定ガイド、島根県に対し、事業全体の説明を行った。

- ・隠岐4町村の役場担当課、教育委員会、認定ガイドへの説明
6月18日～19日、7月11日
- ・隠岐4町村の各観光協会への説明 6月20日、8月8日、8月22日
- ・島根県自然環境課への説明 7月31日

③島前3島のジオパークサイト現地調査の実施

地域内関係者および専門家とともに、地質・生物サイトと文化サイトについての科学的価値を再確認し、保全方針や今後の活用に関する課題を洗い出し、共有した。

・海士町のジオパークサイト（10サイト）

6月25日 生物サイトの現地調査と協議

豊田のタケシマシシウド群落

参加者：9名

三瓶自然館、海士町交流促進課、海士町教育委員会、

隠岐しぜんむら、海士町観光協会、環境省、ジオ推

9月3日～4日 火山岩関係の地質サイトの現地調査と協議

木路ヶ崎灯台の景観、金光寺山の外輪山溶岩、金光寺山から見る

海士方平野、明屋海岸のスコリア丘、角山北方の火山角礫岩、三郎岩

参加者：11名

島根大学、環境省、島根県自然環境課、海士町教育委員会、

海士町交流促進課、隠岐しぜんむら、海士町観光協会、ジオ推

10月4日 湧き水関係の地質サイトの現地調査と協議

金光寺山の湧水、保々見の天川の水

参加者：9名

島根大学、海士町教育委員会、海士町交流促進課、海士町観光

協会、NPO隠岐しぜんむら、ジオ推

12月10日 文化サイトの現地調査と協議

隠岐神社

参加者：10名

環境省、島根県自然環境課、海士町教育委員会、海士町交流促進

課、隠岐しぜんむら、海士町観光協会、隠岐神社、ジオ推

・知夫村のジオパークサイト（6サイト）

9月4日～5日 火山岩関係の地質サイトの現地調査と協議

知夫立ヶ崎の地すべり地形、赤ハゲ山から見る島前カルデラ、
赤壁の火砕丘

参加者：11名

島根大学、知夫村地域振興課、知夫村教育委員会、知夫里島観光協会、ジオ推

12月5日 堆積岩、湧き水関係の地質サイトの現地調査と協議

島津島の生痕化石、河井の湧水

参加者：7名（＋オンライン2名）

島根大学、知夫村地域創生課、知夫村教育委員会、知夫里島観光協会、ジオ推（オンライン：島根県自然環境課、環境省）

3月27日 文化サイトの現地調査

牧畑用の石垣

参加者：7名

和歌山県世界遺産センター、環境省、知夫村地域創成課、知夫村教育委員会、知夫里島観光協会、ジオ推

・西ノ島町のジオパークサイト（14サイト）

10月5日 堆積岩関係の地質サイトの現地調査と協議

美田ダムの凝灰岩、市部の貝化石

参加者：8名

島根大学、西ノ島町教育委員会、西ノ島町産業振興課、
西ノ島観光協会、ジオ推

11月19日～20日 火山岩関係の地質サイトの現地調査と協議

大山石英閃長岩とホルンフェルス・焼火山の火砕岩、鬼舞展望所から
見る島前カルデラ、赤尾展望所から見る国賀海岸、
国賀海岸の摩天崖・通天橋・明暗の岩屋

参加者：11名

島根大学、環境省隠岐管理官事務所、島根県自然環境課、西ノ島町
教育委員会、西ノ島町産業振興課、西ノ島町観光協会、ジオ推

12月11日 文化サイト、生物サイトの現地調査と協議

船越の船引運河、焼火神社、黒木御所趾、由良比女神社

参加者：9名

環境省隠岐管理官事務所、島根県自然環境課、西ノ島町教育委員会
西ノ島町産業振興課、西ノ島町観光協会、焼火神社、ジオ推

3月27日 文化サイトの現地調査と協議

牧畑用の石垣

参加者：7名

和歌山県世界遺産センター、環境省、島根県自然環境課、西ノ島
教育委員会、西ノ島町観光協会、ジオ推

④保全活用計画の章立て案の説明会の開催

専門家の助言をもらいながら事務局側が作成した計画の章立て案の説明
をし、必要な修正や追記提案についてヒヤリングを行った。

・隠岐島前3町村の役場担当課、教育委員会、観光協会

1月22日～1月31日

⑤勉強会の開催

事務局スタッフや地域内で保全に取り組む人材を育成するため、
勉強会やトレイル等の整備ワークショップを実施した。

●オンライン勉強会

8月5日 ジオパークによる保全について、国立公園の基礎情報

1月24日「地質遺産の保全とは？」～糸魚川ジオパークの事例～

2月13日「みんなで守る三瓶山姫逃池のカキツバタ」の事例から学ぶ

3月11日「自然と人が共生するジオパークの保全とは」

●トレイル整備ワークショップ

環境省隠岐管理官事務所と西ノ島町と協力し、生態系の復元と保全を目指す近自然工法の指導者を招へいして行った。

・隠岐の島町の大満寺山のトレイル整備

近自然工法の講師を招へいし、自然に寄り添った登山道の整備に
取り組み、活用と保全のバランスを考慮した技術と知識を学んだ。

10月27～31日 当機構主催、座学1回、野外ワークショップ2回

参加者：座学 21名、ワークショップ 16名（延べ人数）

・西ノ島町の国賀遊歩道の整備ワークショップ

近自然工法の講師を招へいし、自然に寄り添った遊歩道の整備に
取り組み、活用と保全のバランスを考慮した技術と知識を学んだ。

11月1～3日 西ノ島町主催、座学1回、野外ワークショップ2回

参加者：座学 17名、ワークショップ 31名（延べ人数）

⑥ 保全活用計画の検討に向けた地域関係者会議（島前）

海士町 2月18日

「金光寺山エリア（外輪山溶岩、海士方平野、湧水）」の課題と
対応、「明屋海岸のスコリア丘」の課題と対応、「豊田のタケシマ
シシウド群落」の課題と対応

出席者：海士町交流促進課、海士町教育委員会共育課、海士町観光
協会、隠岐しぜんむら、島根県自然環境課、大山隠岐国立
公園管理事務所、ジオ推

知夫村 2月19日

「島津島の生痕化石」の課題と対応、「知夫立ヶ崎の大規模地す
べり」の課題と対応、「赤壁の火砕丘（展望所より）」の課題
と対応

出席者：知夫村地域創生課、知夫里島観光協会、ジオパーク認定
ガイド、島根県自然環境課、大山隠岐国立公園管理事務所、ジオ推

西ノ島町 2月19日

「市部の海生貝化石産地」の課題と対応、「国賀海岸エリア（通天
橋、摩天崖）」の課題と対応、「焼火山エリア（火砕岩、中央火
砕丘と焼火神社）」の課題と対応

出席者：西ノ島町産業振興課、西ノ島町教育委員会教育課、西ノ島
町観光協会、焼火神社、島根県自然環境課、大山隠岐国立
公園管理事務所、ジオ推

成 果：計画的な保全・保護事業の実施、再認定での推奨事項への対応という目的
のもとで、各事業において次のとおり成果があった。

① サイトカルテの更新

1枚のサイトカルテシートで各サイトの現状、課題、活用に関する情報を包
括的に整理できるようになった。また、安全性のチェックシートをサイト
カルテシートに統合したことでサイト管理がより効率的かつ円滑に行える
ようになった。

② 事業説明会の開催

各機関や各町村の担当者との顔合わせや具体的な質問への対応ができ、保
全活用計画策定作業を今後スムーズに進めるための基盤が築けた。

また、島前3町村に対しては、保全活用計画の章立て案と各町村における
各種計画中の保全活用計画の位置付けについて協議を行い、継続性のある
計画づくりに向けて一歩進めることができた。

③島前3島のジオパークサイト現地調査の実施

島前の関係者に対して、ジオパークサイトの価値を再認識してもらい、現状と課題等への目合わせができたほか、存在が知られていないサイトも認知してもらえた。県所管施設の老朽化状況を県担当課が確認しその対策について協議ができた。また、現地調査に専門家を招いたことにより、サイトの1ヶ所についてR7年度に研究を行っていただけることになった。



⑤勉強会の開催

オンライン勉強会により、多くの地域内関係者に対してジオパークや国立公園が目指す保全の考え方に関する情報の発信と共有ができた。また、近自然工法によるワークショップにおいて、『保全とはそもそも何か』を考えるきっかけになった」との声も出るなど、トレイル整備に積極的に関わりたい事業者やジオガイドの存在が確認でき、持続可能なトレイル整備や体制づくりの第一歩として今後の活動につながるものとなった。

⑥保全活用計画の検討に向けた地域関係者会議（島前）

現地調査を事務局の研究員だけでなく島前の関係者と一緒に行ったことに加え、事前に計画全体に関する協議を行っていたことから、当日の会議をスムーズに進めることができた。会議を開催したことにより、今後において島前3町村ごとで話し合っていく事項や各所属で検討すべき内容を明らかにすることができ、保全活用計画の検討に向けた第一ステップを踏むことができた。

2. ブランディング事業 (6,052千円)

(1) ブランド戦略

目 的：ジオパークによる観光地域づくりのブランディングによる誘客促進。

ゴール：①メディア誘致と視察件数（10媒体程度）

夏～秋の対前年度比増

②アクセス数の対前年度比増

内 容：「隠岐の島旅（観光WEBサイト）」を通じた誘客促進を図るため、より親和性の高い「SNS」に焦点を絞った取り組みを進める。

①メディア露出対策

- ・メディア向けの営業資料を作成することで、隠岐の記事掲載回数の増加を図る。
- ・メディア事業者のツアーを実施し、記事を掲載していただくことで夏～秋の誘客促進を図る。

②インフルエンサー招聘

- ・インフルエンサー招聘による新たなターゲット層への認知拡大。

実 施 状 況 : SNS等で活躍するインフルエンサー等を招聘した以下のプレスツアーを実施した。また、高付加価値化した宿泊施設等をテーマとした以下のWEB・SNS等での情報発信を実施した。

- ・5月28日～6月3日 隠岐4町村 参加者：6媒体
取材：西ノ島町 (国賀荘/摩天崖/通天橋)
海士町 (船渡来流亭/Entô)
知夫村 (シーカヤックSUP/シェサワ/赤ハゲ山/赤壁)
隠岐の島町 (隠岐プラザホテル/玉若酢命神社/壇鏡の滝)
- ・6月3日～5日、6月8日～10日 隠岐4町村 参加者：9媒体
取材：西ノ島町 (摩天崖/通天橋/焼火山/国賀荘)
海士町 (シーカヤックSUP/TADAYOI/)
知夫村 (シーカヤックSUP/シェサワ/赤ハゲ山/赤壁)
隠岐の島町 (レストランなぎ/壇鏡の滝/隠岐自然館/
玉若酢命神社/八百杉/壇鏡の滝/那久岬/
ローソク島遊覧船/隠岐プラザホテル)

・情報発信媒体

Instagram、Youtube、Numero Tokyo、LEON、マリクレール、FIGARO、TABIZINE、女子旅ジャーナル、STORY、25ans、LEE

成 果 : ジオパークによる観光地域づくりのブランディングとして、発信力が強化できたとともに（フォロワー数が約200名増加）、隠岐を知らない層へアプローチできた（フォロワーの57%が新規獲得者）。

（2）サステナブルツーリズムの創出 （0千円）

目 的 : JSTS-D（日本版持続可能な観光ガイドライン）に基づくロゴマーク取得に取り組むことにより、日本における観光・ジオ・島づくりにおいてのポジションを確立し、隠岐DMOとして隠岐圏域での「持続可能な観光地域づくり」を推進する。

ゴール : JSTS-D（日本版持続可能な観光ガイドライン）に基づくロゴマークの取得

内 容 : 観光庁の「日本版持続可能な観光ガイドライン（JSTS-D）」のロゴマークを取得するための取組みを行い、使用承諾を申請する。

実 施 状 況 : ロゴマーク取得の本申請に向けて、機構事業における関連内容の整理を行い、観光庁事務局と調整を図った。
また、当機構内や隠岐地域内における各種施策の実施にあたっては、「持続可能な観光振興」という視点をもって取り組むことが重要となるために、サステナブルツーリズムに関する研修受講を奨励するなど職員のスキルアップに務めた。

成 果 : ロゴマークを次年度の上半期に取得できる見込みであり、これにより、隠岐のブランディングがさらに高まるとともに、観光庁等の補助金獲得に繋がられるようになる。

3. ネットワーク事業 （5,025千円）

（1）モンベルとの連携

目 的 : アウトドアアクティビティへの関心度が高い層への情報発信による誘客促進

ゴール : モンベル会員の来島者数前年度比増

内 容 : モンベル会員向けへの情報誌等での隠岐の紹介

実 施 状 況 : ・モンベル会員向けの情報誌に隠岐ジオパークの広告を掲載した。
・モンベルのWEBページ上で、モンベルフレンドショップとなっている隠岐地域内の各施設を周知した。

成 果 : モンベルとの連携体制を維持するとともに、会員ネットワークを活用した隠岐への誘客促進の一助となった。

(2) ICT活用事業

目 的：テレプレゼンシステムの活用による高校交流事業の促進、企業との連携構築、島前・島後間の業務効率の向上

ゴール：テレプレゼンシステムの活用による高校交流事業の件数、企業との情報交換件数

内 容：テレプレゼンシステムを活用し、高校生プロジェクトの企画立案を行い事業化を図る。
ジオパーク関係以外の企業との情報交換を行い、連携事業の実現を図る。

実 施：隠岐高等学校の授業カリキュラム「ジオパーク研究」、「ジオパーク探求」にてテレプレゼンシステムを活用し、高校生企画のプロジェクトのサポート支援を実施した。

●「ジオパーク研究」「ジオパーク探求」へのサポート支援協議

8月20日 利用者：隠岐高校外部アドバイザー、事務局

●隠岐高生開発のSDGsカードゲームプロジェクトの協議

9月2日 利用者：隠岐高校外部アドバイザー、事務局

●高校生企画の島内周遊アプリ開発に向けた助言等

10月2日 利用者：隠岐高校2年生5名、事務局

成 果：隠岐高等学校の生徒等に対する支援活動において、システムを使用した遠隔での手軽な支援も行えたことで地域内の学校教育への貢献につながった。また、島前・島後の機構事務所間を常時つないでいることにより、職員同士のコミュニケーションの向上と業務遂行の効率化に寄与できた。

(3) JGN・GGN大会等

目 的：国内外への会議に参加し隠岐のノウハウを共有することによるネットワークへの貢献

ゴール：2025年度に実施される再認定審査における再認定

内 容：①ジオパーク国際会議への出席
②海外ジオパークとのオンライン交流
③地球惑星連合大会への参加
④JGN総会への出席
⑤JGN全国大会への参加
⑥JGN全国研修会への参加
⑦JGN中四国近畿ブロック会議への参加
⑧3地域（山陰海岸ジオパーク、島根半島ジオパーク、隠岐ジオパーク）交流事業
⑨全地域事務局長会議への出席

実 施：①ジオパーク国際会議

状 況 9月11日～15日 ベトナムカオバンUGG p
参加者：2名（しぜん村 福田氏、野邊）

②海外ジオパークとのオンライン交流

7月にインドネシアのMaros Pangkep UGGpと姉妹提携を締結。

「両地域の高校生（※隠岐＝隠岐高校、隠岐島前高校）によるビーチクリーンイベント開催に向けたオンライン交流」を11月13日に実施。

両地域の高校生（※隠岐＝隠岐高校、隠岐島前高校）による「海洋ゴミの取り組みについてのオンライン発表」のR7年度開催に向けて調整した。

③地球惑星連合大会

5月25～26日 千葉県幕張メッセ

参加者：4名（野邊、ヴォウオシェン、野津、中山）

④JGN総会

7月5日 東京都日比谷図書文化館
参加者：2名（池田理事長、野邊）

⑤JGN全国大会

8月30日～9月1日 青森県下北ジオパーク
参加者：4名（野邊、立花、大田、河本）
※機構理事（坂栄副理事長）は台風接近により欠席

⑥JGN全国研修会

12月8～10日 伊豆半島世界ジオパーク
参加者：1名（河本）

⑦JGN中四国近畿ブロック会議

10月23日～24日 兵庫県豊岡市
参加者：2名（長田、中山）

⑧3地域（山陰海岸GP、島根半島GP、隠岐GP）交流事業

3月9日 3地域によるラジオ番組（中四国ライブネット）出演
参加者：1名（野邊）

⑨全地域事務局長会議

7月6日 東京都国立オリンピック記念青少年総合センター
参加者：1名（野邊）

成 果： 隠岐ジオパークのノウハウを国内外の他地域の方々に紹介することによりジオパークネットワークへの貢献を行うとともに、他地域の先進的な取組や隠岐との共通した課題を知ることができ、活動内容の充実強化を図る上でネットワークを活かした人的連携の重要性を再確認した。

4. 教育推進事業 （2,266千円）

（1）教育機関連携事業

①ジオ学習会実施業務

目 的： 教育機関及び公民館活動と連携した事業実施により、隠岐ジオパーク及び環境保全への関心度を高める。

ゴール： 小・中・高における隠岐ジオパーク及び環境保全への関心度70%達成。

内 容： ①保育所、小中学校、高校でのジオパークの要素を取り入れた教育プログラムを実施するため島前・島後のガイド会社へ委託し専門家の派遣を行う
②公民館活動と連携した講座開催において、島前・島後のガイド会社へ委託し専門家の派遣を行う。

実 施： 専門家として74件の講師派遣を行った。

状 況 （海士町11件、西ノ島町8件、知夫村6件 隠岐の島町49件）

成 果： 前年度に比べて講師派遣件数が約20件減少した。これの主な要因の一つとしては各学校で講師謝金を確保していたことが挙げられるが、これは教育活動にジオパークの資源を積極的に活用しようとする自主的姿勢の表れであると考えている。また、派遣制度内容を毎年度当初に説明を行うことで教員の間に徐々に浸透してきている様子もうかがえる。
派遣依頼先は、前年度と同様に大半が教育関係（学校）からであった。公民館や事業所からの依頼が増えるように、地域の広報誌・回覧板への掲載や公共施設へのチラシ配置によって制度の周知を図り、地域の方々についても隠岐ジオパーク及び環境保全への関心度を高めていく。



②高校魅力化との連携事業

目 的：各高校魅力化との連携およびWAIRA ACTの企画・運営支援を通して、高校生たちの隠岐ジオパーク及び環境保全への関心度を高める。

ゴール：高校生における隠岐ジオパーク及び環境保全への関心度70%達成。

内 容：①各高校魅力化事業との連携

ジオパークを取り入れた高校魅力化を支援するため、授業プログラムの作成及び事業実施へのサポートを行う。

②高校生連携事業（WAIRA ACT）の企画・運営支援

山陰パナソニック及び隠岐養護学校の生徒が描いた絵を基にプロによるアートデザインを作成し、ノベルティグッズの販売による活動資金の調達と新規事業の企画立案を行う。

実 施 状 況：
・WAIRA ACTが隠岐養護学校生徒や山陰パナソニックと連携し、隠岐の島町で開催された隠岐の島ウルトラマラソンのボランティアTシャツのデザインを製作した。
・WAIRA ACT、隠岐養護学校生徒、山陰パナソニックによるオリジナル手ぬぐいを作成した。

成 果：隠岐の島ウルトラマラソンボランティアTシャツやオリジナル手ぬぐいの制作などWAIRA ACTのメンバーと隠岐養護学校生徒とのコラボ製作を通じて両者及び事務局との連携を進めることができた。今後も養護学校との連携を大切にし地域を盛り上げていく。また、海洋ゴミイベントや海外のジオパークとの交流を通じてWAIRA ACTのメンバーが地域に主体的に貢献できる人材に成長しつつあると感じている。



③地域連携事業の実施

目 的：公民館活動と連携した事業実施により、地域住民における環境保全への関心度を高めるとともに、保全活動への参加率向上を図る。

ゴール：地域内の研修会や保全活動への参加率70%を達成。

内 容：各町村の教育機関と連携した学習イベントを各島年1回計4回開催する。

実 施 状 況：●**隠岐4町村全体**における連携事業

・小中学校教育研究会理科部会（隠岐4町村）との連携活動
小学校理科の先生方と、地域の地質資源を活用した授業づくりのためのフィールドワークと研修を実施した。

8月2日 都万地区 参加者：10名

●**隠岐の島町**における連携事業

・協働保全バスツアー「隠岐独自の自然を知り 自らの手で守る」
希少植物についての学習及び特定外来生物の防除活動を実施した。

6月1日 五箇地区 参加者：地域住民25名

・布施地区ビーチフェスタ実施（地区の活性化と自然保護を目的）
ハマナス学習会、ゴミ拾い等を実施した。

7月13日 布施地区 参加者：35名

・「エコジオプロジェクト」海岸清掃in蔵田
海岸清掃活動を実施した。

9月7日 蔵田 参加者：71名



- ・しまね子ども読書フェスティバル「かるた作り」
隠岐の島町図書館と連携し、地域の自然や名所をテーマにした「かるた作りワークショップ」を実施した。
10月14日 隠岐の島町図書館 参加者：親子12組
- ・エコフェスタinおき
隠岐の島町まちづくり推進協議会主催のフェスタに環境省と連携し、ブースを出展した。
2月1日 隠岐島文化会館 参加者：約250名
- ・春日の浦ビーチクリーン（自然保護を目的）
ハマナス学習会および海岸清掃を実施した。
3月30日 布施春日の浦 参加者：32名

●海士町における連携事業

- ・後鳥羽院顕彰事業
隠岐後鳥羽院和歌大賞の受賞者1名に隠岐ユネスコ世界ジオパーク賞を贈呈した。

●知夫村における連携事業

- ・「大地の足跡～地質から見る知夫の歴史～」講演会開催
知夫里島観光協会主催で、当機構の地質研究員が講師を務め、知夫里島の地質について解説した。
7月15日 知夫村役場 参加者：15名



●西ノ島町における連携事業

- ・西ノ島町教育員会が実施している「しまっこ広場」と連携し、隠岐の自然を体感する活動を実施した。
3月15日 西ノ島町民体育館 参加者：13名

成 果：上記のとおり多様な学習イベントを関係部署と連携して実施し、「今後も生態系を守るために更に学びたい」との声が寄せられるなど、環境保全への関心を地域の方々に対して高めることができた。

エコジオプロジェクト 「大地の足跡～地質から見る知夫の歴史～」

④英語キャンプの企画・運営

目 的：隠岐島内の中学生を対象に、島内の地域資源を活用したフィールドワーク等に取り組みながら、隠岐ジオパークや地元、海外への興味関心を高め、英語で表現する力を身につける。

ゴ ール：中学生における隠岐ジオパークについての関心度の向上

内 容：島内の中学生を対象とした1泊2日の英語キャンプを開催し、国外へ向けた情報発信への関心を高める。また、英語キャンプへの参加を促すために、各島において日帰り英語活動を開催する。
各島1回計4回開催する。

実 施 状 況：●デイキャンプ

- ①隠岐の島町 5月25日 参加者：2名
- ②海士町 6月2日 参加者：2名
- ③知夫村 6月15日 参加者：3名
- ④西ノ島町 中止 参加者なしのため

●宿泊キャンプ

11月23～24日（1泊2日） 知夫村 参加者：16名

成 果 : 生徒一人ひとりが英語を通じて外国人と積極的に交流し、「英語を覚える」だけでなく、伝え合う楽しさや、協力して課題に取り組む姿勢など、英語以外の面でも大きな成長が見られた。生徒からは、「オンラインではなく実際に会って交流したい」「単語が何個か分かるようになったし、言っていることがなんとなく分かるようになってきた」といった声が寄せられ、英語への自信や関心の高まりがうかがえた。また、協力したALTからは「英語圏から離れている隠岐諸島の生徒にとって良い英語体験の機会だった」との評価があり、本事業が貴重な異文化交流・語学学習の場となっていることが確認できた。



(2) 広報活動

目 的 : 隠岐ジオパーク推進機構の実施事業の内容や事業成果を広く発信し、推進機構への理解促進と隠岐への誘客促進を図る。

ゴール : 地域内の研修会や保全活動への参加率70%を達成。

内 容 : ①季刊誌オキドキの発行

隠岐ジオパーク推進機構の活動とその成果を島民に広く伝えるためのフリーペーパーを年4回（春・夏・秋・冬）発行する

②ジオ隠岐タイムの放映

隠岐ジオパークに関する取り組みやイベント開催に関する番組をNHK松江放送局との協働により月1回放送する。しまねっと610内で10分ほど。

実 施 状 況 : ①季刊誌「オキドキ」の発行

9月「隠岐の固有種特集」発行

12月「島前カルデラ特集」発行

3月「隠岐の山を守る」発行

②ジオ隠岐タイムの放映

NHK松江放送局と協働し、隠岐4町村内の活動を毎月1回、県全域に放送し、隠岐の魅力等を発信した。

4月17日 綱引き大会(海士町)

5月22日 しげさ踊りパレード(隠岐の島町)

6月19日 知夫村ウォーク&クルーズ(知夫村)

7月17日 奉納音楽祭(海士町)

8月21日 家具再生プロジェクト(海士町)

9月18日 巡回展「漂う水族館」

10月16日 「エコジオプロジェクト」海ごみ清掃活動(隠岐の島町)

11月20日 大満寺山整備ワークショップ(隠岐の島町)

12月18日 飯美地区わら蛇行事(隠岐の島町)

1月22日 隠岐自然館深海イベント(隠岐の島町)

2月19日 蘇民将来(知夫村)

3月19日 紙テープ再利用ワークショップ(海士町)

※はつまいり(西ノ島町)の取材・放映が都合つかず

成 果：「オキドキ」については、イラストを活用するなど隠岐の成り立ちや環境保全を地域の方々によりわかりやすく伝えられるように努めた。取材を通じて隠岐固有の生物やその保全の重要性を紹介することができ、「こんな生き物がいるとは知らなかった」との声が寄せられなど地域の方々の地域資源への関心を高めるきっかけとなった。

「ジオ隠岐タイム」については、「毎月の放送を楽しみにしている」「隠岐ならではの話題に興味を持った」などの好意的な意見が松江放送局に多数寄せられた。隠岐と県民をつなぐ定番コンテンツとして定着しつつあることを確認できたとともに隠岐ジオパークの取り組みを広く発信できる手段として今後も期待が持てる。

5. 誘客促進事業 (70,446千円)

(1) 国内マーケットへの情報発信

目 的：SNSや動画配信により隠岐の認知度及び関心を高め誘客促進を図る。

ゴール：隠岐のWebへのリーチ数、アクセス率

内 容：①デジタルマーケティング
②ラッピングバスの運行
③誘客宣伝事業

実 施 状 況

①デジタルマーケティング

●Instagramによる情報発信

ジオ機構職員が、Instagram投稿を「週1回」程度実施した。

※大人の島留学生にも協力頂き、島前町村の写真素材を収集し、隠岐諸島全体の情報発信を実施した。

●Google/Instagram広告の配信

専門人材による広告配信運用を行った。広告配信運用手法や広告データ解析ノウハウについての専門人材からジオ機構職員が指導を受けた。

●各種アンケート調査の実施

観光客の動向を把握し、効果的なマーケティングを行うため、各種アンケート調査を実施した。

※回答率向上のためインセンティブを設けた。

効率化のためにQRコードを活用して調査を実施した。

②ラッピングバスの運行

松江駅～七類港、松江駅～境港間の路線で、「隠岐ユネスコ世界ジオパーク」のラッピングバス各1台を運行した。

③誘客宣伝事業

・観光情報説明会（関東・関西）に参加した。※島根県主催
旅行エージェントに対する隠岐のプロモーション活動

7月2日 東京 参加者2名（錦織、小泉）

エージェント22社56名

7月3日 大阪 参加者2名（錦織、小泉）

エージェント29社53名

商談会・懇親会を通して、それぞれ14社程と商談を行った。

・しまねふるさとフェアに参加した。※島根県主催

目的：観光客に対する隠岐のプロモーション活動

実施日：1月18日、1月19日

参加事業者：隠岐汽船(株)、合同会社ストアーかみや、

(有)海土物産、知夫村役場、知夫里島観光協会、

来場者数：12万人（フェア全体、2日間）

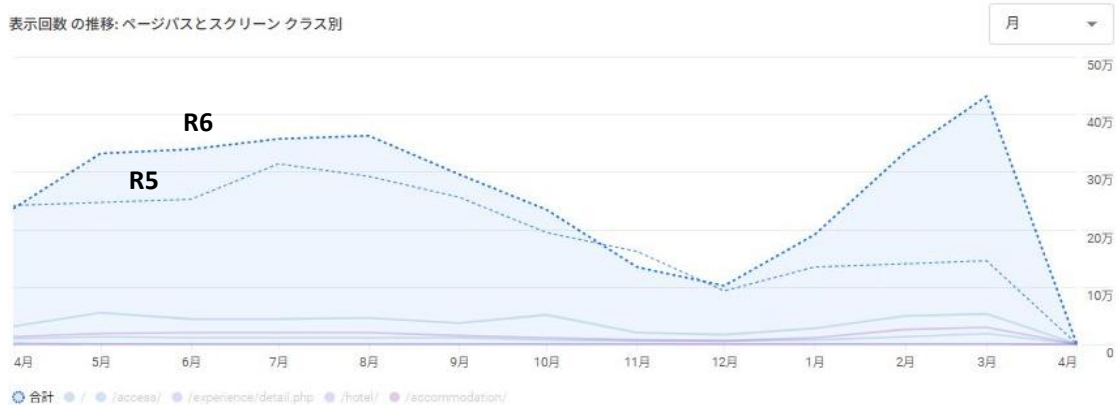
その他：当機構と隠岐汽船による共同出展にて約1150人に
観光パンフレットを配布した。

成 果 : Instagram公式アカウントの定期運用によりフォロワー数を「約1000人」増加させることができた。

「隠岐の島旅」の年間PV数が「R5:約240万→R6:約330万」と大きく増加するとともに、WEB広告の配信を通じて「隠岐の島旅」への顧客流入（隠岐OTA：オンライン上の旅行代理店業務での予約促進）を図ることができた。観光情報説明会において隠岐の最新情報を売り込むことができ、新規旅行エージェントによる旅行商品造成に繋げることができた。

■ポータルサイト『隠岐の島旅』のPV数推移

(R6年度PV合計数 3,344,384 前年比約36%増)



(2) 企画乗船券造成事業

目 的 : 隠岐への誘客促進と電子化による利用者及び島内事業者の利便性、効率化を図るとともにDX化の促進によるデータ収集とその活用を行う。

ゴール : 9,000枚の販売

内 容 : ①企画乗船券造成事業

②春季版おき得乗船券

有人国境交付金では対象とできない年度末(R7.3)の割引に係る経費と、年度初め(R7.4)のチケット作成等の企画開発及びプロモーションを行う。

実 施 : 6月から紙版から電子版に完全移行させた。

状 況 4~3月利用者数は5,125人(対前年比で約6割)であった。

※電子化に伴う利用者からの問い合わせ件数の増加に対し、利用手順説明動画を製作。利用者の利便性向上・事務局側のオペレーション改善等を目的に電子版システムの仕様変更を2月に実施。

成 果 : 電子版への完全移行により、効率的なデータ収集とより正確な事業の評価・分析が行える体制が整えられたが、電子版システムの仕様が利用者にとって不便であったこともあって、利用者数は大きく伸び悩み、また、紙版の利用者が30%強(1607人/5125人)を占めた。次年度は電子版のさらなる利用者増を図るとともに、利用データ数を積み上げていくことで評価・分析を進め、観光消費額の拡大を目指していく。

(3) ジオパーク周遊コンテンツ開発事業

目 的 : 観光客が少なくなる秋~冬季(9~2月)観光客の底上げを図るため、ジオパークを活用した4島を周遊できるコンテンツの開発を行い、実際の販売までつなげる。

ゴール : イベント参加者数1,000名(LINE登録者数)

内 容 : ジオパークを活用した4島周遊コンテンツ(宝探しイベント)を継続するとともに、アプリを活用したデジタル版の実証を行う。

実 施 : イベント参加者数：432名
状 況 利用者数の拡大を図るために、隠岐OTA（オンライン上の旅行代理店業務）からの宿泊予約完了メールを活用したPRやインフルエンサーを活用したキャンペーンPR等を実施した。

成 果 : 隠岐4島内の周遊を促すことで、滞在日数の延伸・観光消費額の向上を図ることができた。また、LINEアプリを活用したことにより前年度は把握できなかった参加者数について正確に把握することができた。
しかしながら、予算の制約から前年度と同じイベント内容にならざるをえなかったことや参加者アンケート結果からみて観光客の満足度向上施策としては一定の効果があったことを考慮しても、誘客施策としての費用対効果は低い結果であった。このため本事業は本年度をもって終了させることとする。

（４）交流促進事業

目 的 : 他の離島地域及び松江・境港地域との連携事業の実施により、認知度の向上と誘客促進を図る。

ゴ ー ル : 隠岐の認知度アップ及び来島意欲の向上

内 容 : ①島の宝観光連盟

②松江・境港・隠岐観光振興協議会

実 施 : ①島の宝観光連盟

状 況 ・全体会議・研修 4月19日～20日長崎県壱岐市
・リアルイベント@離島百貨店 11月2日東京都（日本橋）
※6団体共同での情報発信

②松江・境港・隠岐観光振興協議会

・総会 6月7日海士町
・京都芸術大学の学生による情報発信事業
〈エリアイメージデザイン〉
テーマに沿ったエリアをつなぐキャッチやネーミングを制作し
それにあわせてアイコンとなるデザインを製作

【現地取材】

6月15～16日 松江市、8月15～17日 隠岐諸島

9月28～29日 境港市・松江市美保関

〈京都芸術大学での物産展〉 11月2～3日京都芸術大学

京都芸術大学学園祭で3圏域（松江・境港・隠岐）を取材した同大学生が3圏域関連の商品（取材したイチオシ商品、3圏域を紹介する冊子）の販売と誘客PRを実施。来場者数：約25,000人

・誘客推進事業（五感を研ぎ澄ます旅の提案）

小泉八雲著「怪談」出版120周年を記念した松江ゴーストツアー特別版「ゴーストツアーin隠岐」を開催

11月11日～12日 旅行代金：22,000円（宿泊費・交通費含）

催行人員：12名 旅行企画・実施：（株）島ファクトリー

成 果 : 島の宝観光連盟による東京でのリアルイベントにおいて、「島ファン」及び各島関係者と交流したことにより、数名の方に来島いただいた。また、前年度にリニューアルしたWEBサイト上で「島々のブログ」を毎月更新し隠岐の認知度及び来島意欲の向上に繋がった。
3地域（松江・境港・隠岐）の連携強化に関しては、京都芸術大学の学生に現地取材及び学園祭での情報発信に繋げることができた。「五感を研ぎ澄ます旅の提案」は次年度も継続し、NHK朝ドラ「ばけげん」を契機とした3地域への誘客に繋げていく。

(5) パンフレット作成

- 目 的 : 効果的な情報発信や誘客をするために、一般観光客向けやジオパークに特化した情報を伝える。
- 内 容 : ①観光パンフレットの作成
観光パンフレット「隠岐楽」と、旅行会社向けデジタルパンフレットの作成
- ②ジオマップの作成
ガイドマップ「隠岐ユネスコ世界ジオパーク見どころマップ」のリニューアル作成
- 実 施 状 況 : ①観光パンフレットの作成
令和7年度版「隠岐楽」としての部分改訂（2万8千部）と、旅行会社向けデジタルパンフレットの部分改訂を行った。
- ②ジオマップの作成
「隠岐ユネスコ世界ジオパーク見どころマップ」に盛り込む内容やストーリーを再検討し、4町村の観光関係者との協議を経て、全面改訂を行った。
日本語版を6,000部印刷するとともにPDFデータをウェブにアップ。
- 成 果 : 紙媒体による隠岐地域の案内資料を作成することにより、WEBによる情報収集に不慣れな顧客に対し必要な情報を発信することができた。
ジオマップについては、隠岐ジオパークの認定時に定めた4つのテーマを中心に内容を選定するとともに、旧版では掲載しなかったジオパークサイトを紹介することで、「隠岐楽」と差別化した内容とした。また、全体サイズを大きくしたことで、字が読みやすくなり紙版情報を求める年齢層に対してより適切なものになった。
なお、「隠岐楽」については、コスト削減の観点から「各種イベントでの大量配布の取りやめ(=リーフレットで代用)」「ページ数の削減(=必要な情報の取捨選択)」等を次年度に検討・実施する。

(6) インバウンド対策

- 目 的 : 外国人観光客の増加
- ゴール : 外国人来島者1,000名
- 内 容 : ①B to B プロモーション
・メディア、旅行会社FAMトリップ
・トラベルマートへの参加
- ②多言語対応による受け地整備
・英語版WEBサイトのコンテンツ拡充、SNS公告配信
・事業者向け多言語対応研修
- 実 施 状 況 : ①B to B プロモーション
商談会（トラベルマート）への出展 9月26～28日東京ビックサイト
インバウンド顧客を抱える旅行エージェントの隠岐への旅行商品造成を目的とした商談会に参加。31社のエージェントと商談を実施。
数社から旅行商品造成に向けた問い合わせ等があり11月末にベルギーのエージェントがFAMトリップに隠岐を訪問。
- ②多言語対応による受け地整備
・英語版WEBサイト掲載用の記事を制作（各町村の国際交流員が協力）
・英語版WEBサイト、SNS情報発信で活用するための宣材写真を収集
・次年度実施予定の英語版WEBサイトへのOTA機能搭載を契機とした隠岐OTA（オンライン上の旅行代理店業務）への参画促進に向けて営業
・インフルエンサーを招致 6月3～5日／6月8～10日
Cam Whitnall氏（イギリスを中心に活動、フォロワー数60万人規模）
隠岐の島町、西ノ島町、知夫村を取材し、SNSを通じたプロモーションを実施。

- 成 果** : ・トラベルマートへの参加等を通じて以下の成果を得た。
ベルギーのAGTによる新規旅行商品の造成 (R7催行予定)
ガイド商品を組み込んだ高単価商品の造成 (R7催行予定)
・隠岐OTAへの参画促進に向けた営業活動を行ったことで、英語版WEBによるOTAのR7導入時での多くの宿泊施設の参画に向けて、まずは日本語版WEBへの新規参画事業者を一定数得ることができた。
・外国人観光客数は、R5(4-3月)522人→R6(4-3月)631人と増加傾向にある。

(7) コンテンツブラッシュアップ

- 目 的** : 既存商品のブラッシュアップによる旅行商品の販売促進と誘客促進を図る
ゴール : 商品の予約者数の昨対比増加
内 容 : 顧客目線で顧客のニーズを満たす商品になりきれていないものをピックアップし、その商品に対するコンサルティングを行う。
実 施 状 況 : ジオガイド者のマーケット開拓のためにwebページを改善した。具体的には、既存のガイド紹介webページが観光ポータルサイトの外にあったことから観光ポータルサイトとの回遊性を損ねていたため、既存のガイド紹介ページを同ポータルサイト内に移設した。併せて、ポータルサイト内のグローバルメニューに「ガイド」を項目として追加した。
※事業費は着地整備事業(ガイド活用事業)から捻出
成 果 : ジオガイドの存在を隠岐の全般的な観光情報と絡めて発信できるようになり、ガイド紹介WEBを通じた予約数がR5(5件)→R6(20件)と増加し、ジオガイド者が選ばれる頻度を高めることができた。

(8) 小中高校修学旅行パンフレット作成

- 目 的** : 5月～7月中旬及び10月～12月初旬の修学旅行誘致による観光客数の増加を図る。
ゴール : 修学旅行受け入れ件数の向上
内 容 : JTBとの連携により、隠岐地域内におけるジオパークを活用した教育旅行パンフレットを作成し、JTBとの関りのある学校機関への営業を行う。
実 施 状 況 : JTB等との協議の結果、パンフレット作成よりも教育旅行の営業活動を行う旅行代理店に隠岐の魅力を知って頂くことを優先することとし、各旅行代理店の視察受入れ事業に変更して実施した。
【視察受入状況】
・7月30～31日：阪急交通社(サマーキャンプ)
・7月31～2日：大阪市立墨江丘中学校(修学旅行)
・8月21～23日：JTB各支店営業担当者
・8月23～25日：大阪箕面自由学園高等部の教員2名、旅行会社
※探求旅行先としての宿泊施設及び体験メニューの下見旅行
成 果 : 大阪箕面自由学園高等部(50人規模)の探求旅行がR7年度に西ノ島町で実施予定。
また、次年度以降の営業活動についてJTBとの連携体制を構築できた。

(9) 社員研修プログラム作成

- 目 的** : 5月～7月中旬及び10月～3月における企業の社員研修及び大学及び研究者による研修プログラムを作成し観光客数の増加を図る。
ゴール : 大人向け研修の受け入れ件数の向上
内 容 : JTB及び専門家によるプログラムの開発を行う。

実 施 状 況 : 研修プログラム作成に向け、実際に営業を担当するJTBの職員の方に隠岐の魅力を直接感じていただくために、視察受入を実施した。JTBからの意見を伺い、来年度以降の事業方針の検討を行った。

【視察受入状況】

- ・8月2～3日 : 不識塾
- ・8月24～25日 : JTB山陰支店（社員旅行）
- ・9月1～3日 : JTB東京中央支店 営業担当者
- ・9月7～8日 : JTB山陰支店（社員旅行）
- ・10月4～5日 : JTB第六営業部 自治体担当者
- ・10月5～6日 : MI-6
- ・10月6日 : クレジオパートナー

成 果 : 次年度以降の営業活動についてJTBとの連携体制を構築できた。また、営業活動の新たな手法として、一般の旅行代理店だけでなく、企業旅行等を専門的に取り扱う代理店の活用も検討することとなった。

(10) 隠岐ジオパークの地域資源を保全・活用した島コンテンツ拡販事業

目 的 : 隠岐ジオパークの地域資源を活用し「自然」「人の営み」「アクティビティ」要素を取り入れた島コンテンツの磨き上げと拡販に取り組む

ゴ ール : 集客目標 : 346名、売上目標 : 1,633,000円

内 容 : ①隠岐の島町「閉館後の隠岐自然館で隠岐民謡体験ツアー」
②海士町「ディープな島ツアー」（ジオパークツアー）
③知夫村「SUP・シーカヤック・マリナパックプラン」コンテンツ販売
④上記①～③のWeb販促及び情報発信

実 施 状 況 : ①**隠岐の島町**「閉館後の隠岐自然館で隠岐民謡体験ツアー」

9/25、10/9、10/10、10/19、10/23、10/24

集客 : 236名（目標195名 : 121%）

売上 : 520,000円（目標585,000円 : 82.1%）

②**海士町**「ディープな島ツアー」（ジオパークツアー）

a. 顧客嗜好に沿ったセミオーダー型ツアー

隠岐しぜんむらによるツアー催行

セミオーダー型ツアー「ジオパークプライベートツアー」を造成し、EntôのHPで販売開始。

販売実績は1組（4名）に留まったが、実際にツアー催行ができ、今後もニーズに合わせて継続的に販売していく。

b. 島の各地区の生活への案内人の育成研修

次年度以降のプラン販売と催行回数を確保するためのガイディング講習会を実施。

12/12 全8セッション Entô 参加人数 : 15名

c. オーダーツアーの魅力を伝える写真の活用による広報

オーダーツアー用の広報写真を撮影（11月25日）

EntôのHPやDMOサイト上で掲載中。今後も活用を進めていく

③**知夫村**「SUP・シーカヤック・マリナパックプラン」コンテンツ販売

SNS、インフルエンサー、WEB記事等によるプロモーションを実施。

シーカヤック等備品を購入。

※シーカヤックは品切れによる納品遅れで12月に購入

各月末にお客様アンケートやインタビュー内容から課題を抽出。

集客 : 156名（目標50名 : 312%）

売上 : 1,678,600円（目標400,000円 : 420%）

④上記①～③のWeb販促及び情報発信

a. ツーリズムEXPOへの出展

9月26～29日 東京ビッグサイト

・商談会 9月26・27日

商談件数：16件（目標16件：100%）

Instagramフォロワー数：321名増（目標220名増：146%）

ブース来場者：945名

・JTBブース 9月27日

隠岐のPR、JTBプロジェクトの取組

登壇者：JTB・隠岐DMO・知夫里島観光協会

・EXPOブース 9月28日

ジオパーク魅力紹介、隠岐の観光素材紹介

登壇者：隠岐DMO

b. AIチャットボットの導入

省人化の観点から10月～12月に試験的に導入し、多言語での情報発信と問合わせに対応できるようにした。

<実績>

・チャットアクセス数1,769

・サンプル質問クリック数

隠岐のおススメの体験を教えてください 86回

隠岐へのアクセスについて教えてください 91回

隠岐で人気のキャンペーンを教えてください 99回

隠岐のおススメの宿泊先を教えてください 65回

・多かった質問

日帰り～1泊2日など短期間で隠岐を楽しめるコース

旬の食べ物、名物

交通機関の予約

成 果：各島ごとにコンテンツの磨き上げができ、次年度販売に向けた体制が整った。また、ツーリズムEXPOへの参加により情報発信とWEB予約に繋げる実証ができた。

6. 着地整備事業 (23,435千円)

(1) ユーザー体験の整備

目 的：WEBサイトの内容充実及びWEBでの予約を可能とすることにより、これまで取りこぼしていた観光客の誘客を図る。

ゴール：隠岐ジオパークの認知を高める、顧客の来島前の不安感を払拭。

隠岐の島旅から宿泊/体験の予約を促進する。

隠岐ジオパークの価値を伝える

内 容：①WEBサイト強化

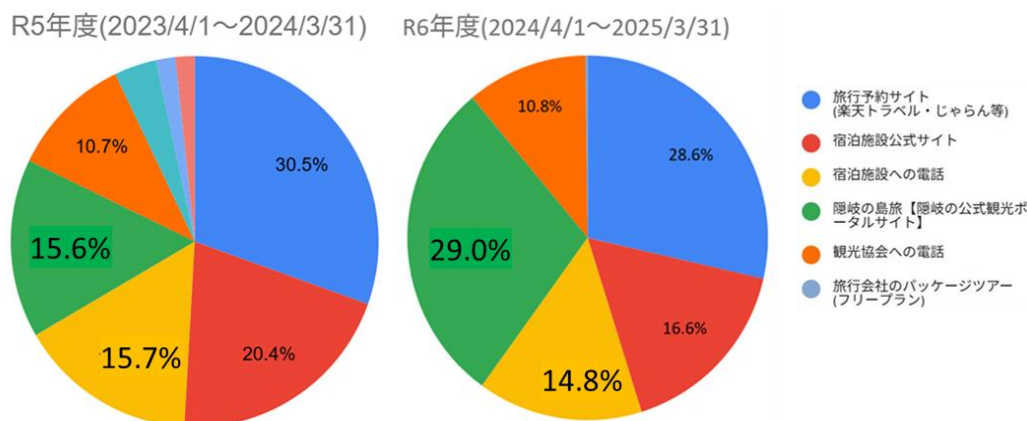
隠岐OTA（オンライン上の旅行代理店業務）での予約者数を増やすため、より使いやすい機能改修を行う。宿泊/体験予約エンジンおよびデータ格納基盤（地域共創基盤）の維持管理及びWEBサイトの保守管理、隠岐OTA運用の費用。

②WEB予約システム維持管理運営 →「①WEBサイト強化」に統合

③ジオパークWEBサイト維持運営

実 施 状 況 : ①WEBサイト強化、②WEB予約システム維持管理運営
 利用者へのアンケート調査結果・各WEBページへのアクセス状況等を踏まえ、WEBサイトを随時改修した。
 体験予約機能・宿泊予約機能・顧客データ管理及び関連するWEBページ（隠岐の島旅）の保守・管理を実施した。
 ※改修及び保守管理は、観光庁の専門家派遣事業を活用し専門家の知見を踏まえながら実施。

成 果 : 「隠岐の島旅（隠岐OTA）」を通じた宿泊・体験予約を促進することで、予約動線が、以下のとおり着実に変化しつつあり、隠岐OTA導入以前に取りこぼしていた観光客へのアプローチが可能となった。



「電話」による予約数の減（R5:15.7%→R6:14.8%）

来島者が予約時に宿泊施設等への電話が繋がらないことによる取りこぼしの防止。

「隠岐の島旅（隠岐OTA）」による予約数の増（R5:15.6%→R6:29.0%）

隠岐OTAは、隠岐の宿泊施設情報が一覧となっているため、ある宿泊施設への予約ができない場合でも、他の宿泊施設へスムーズに誘導することができる。また、宿泊予約のついでに体験コンテンツも併せて隠岐OTA内で予約が可能なおことからクロスセル効果（例：おにぎりのついでにお茶も買う）も生じさせることができる。

（２）ジオ拠点施設の魅力化

目 的 : 隠岐の魅力の発信と隠岐に対する満足度向上、拠点施設への入館者の増加

ゴ ール : 各展示施設への入館者数の増加

内 容 : ①海士町拠点施設の運営管理業務
 ②拠点施設における企画展開催事業
 ③展示品の作成

実 施 状 況 : ①海士町拠点施設の運営管理業務

●『石ってなんだ？』企画展 3月26日～5月7日

私たちの足元にある石が地球上でどのように形成されたのかや、石を構成する粒子の集まりに焦点を当てた企画展を実施。
 化石や鉱物（海士町教育委員会収蔵）、「ときめく鉱物展（県立三瓶自然館サヒメル）」の資料を展示。

●『やきもの✕おもてなしinジオ』 6月29日～7月7日

人と大地のつながりを感じるイベントを実施。
 隠岐窯の協力を得て、やきものの素材に触れる展示に加え、期間中にパネリストを招いてのトークイベントも実施。

●『ごとばんさん芸術文化祭 移動美術館』

9月末～10月5日 ※会場提供

北前船と民謡「きんにやもにや」をテーマとした実施。
昔から現代、そして未来の「暮らし」についてのパネルと映像を展示。

- ジオ読書会 10月12日
Entôのコンセプトでもある「地球にぽつん」の世界観を楽しむ読書会を海士町中央図書館と連携して実施。
参加者は読書後、感じたことや気づきをお互いにシェアした。
- 写真展 3月3日～16日 ※会場提供
写真と来館者への問いを用いて、旅の意味を考えさせる写真とパネルを展示。開催期間中の3月15日にトークイベントも開催。

②拠点施設企画展開催事業

〈隠岐4島での巡回展〉

- 漂う水族館 ～漂う生物と漂着ゴミの比較展示～

- ・ 西ノ島町 : ふるさと館 5月8日～23日
- ・ 隠岐の島町 : 隠岐自然館 8月3日～18日
- ・ 知夫村 : 図書館 10月8日～12日
- ・ 海士町 : Entôジオラウンジ 1月11日～26日

※財源: 「しまね環境保全活動助成金」

- 足元の小さな不思議ワールドー見るから観るー

小さな自然への気づきを促す展示。学芸員による解説イベントも実施。

- ・ 海士町 : Entôジオラウンジ 8月1日～8月28日
- ・ 隠岐の島町 : 隠岐ジオゲートウェイ 9月4日～9月29日
- ・ 西ノ島町 : ふるさと館 10月2日～10月29日
- ・ 知夫村 : 図書館 11月12日～12月3日

〈隠岐自然館等での企画展示・イベント〉

- 水の循環展 in隠岐～めぐる水を考えよう～ 5月3日～15日
※内閣官房水循環政策本部事務局 提供
- 高田山の地質と生態系を紹介するミニ展示 5月29日～6月30日
- 国内サンショウウオパネル展 7月3日～31日
※岡山県サイピアより提供
- 昆虫観察会および夏季昆虫企画展
昆虫観察会 7月21日
企画展 8月1日～8月31日
- 川のいきもの観察会および秋企画展
観察会 参加者不足のため中止
企画展 10月8日～10月31日
- 秋のいわさんぽ 10月13日、19日
隠岐島後を代表する岩石の露頭状態の見学イベント。
地質初心者にも分かりやすい内容で実施
※10月19日は悪天候のため中止

- 隠岐の深海を探索

12月14日 島根大学隠岐臨海実験所の吉田准教授による講義
や当機構の地質研究員による珪藻土の解説などの
イベントを実施

3月20日 島根大学隠岐臨海実験所の吉田准教授による「隠岐の
深海生物～隠岐自然館特別解説Day」を開催

3月30日 島根大学隠岐臨海実験所の吉田准教授による「隠岐の
海底観察会」を実施

- 知らざる隠岐の岩石 vol 1. 菱沸石のミニ展示
知夫村で採取した標本を用いて、菱沸石の隠岐におけるでき方や使われ方などを紹介するミニ展示を開催

③「地球時間の旅展」の研修会（日本GPNW主催）への参加

二つの研修会に職員が各1名参加した。

- ・高知県室戸市（室戸ユネスコ世界ジオパーク）10月7日～8日
石の多様性や性質を活かした体験コンテンツの活用方法に関する情報共有と「地球時間の旅」展をベースとした体験コンテンツ作成のアイデア出しを行った。
- ・山口県美祢市（Mine秋吉台ジオパーク）2月2日～3日
サステナブルツーリズムをテーマにしたジオパーク拠点施設での企画展示の仕方のワークショップとMine秋吉台ジオパークが実践しているサステナブルな考え方に関する現地視察を行った。

④展示品作成事業

- ・深海に関する剥製等の作成
リュウグウノツカイ（隠岐近海で捕獲）の剥製を作成し、12月14日の深海イベント時にお披露目した。隠岐の周りの深海を紹介するタペストリーを作成し海の生物コーナーに12月下旬に設置展示した。
- ・パネルの修正と追加
隠岐自然館内にマントルゼノリスの形成図等を展示追加した。
隠岐の特徴的な岩石をわかりやすく説明した基礎知識表を掲示した。

⑤再認定審査での指摘事項（ジオパークに関する無料ゾーンでの情報発信不足等）への対応

- ・隠岐自然館の入り口にユネスコ世界ジオパーク等のロゴを掲示。
- ・ユネスコ世界ジオパークプログラムに特化したポスターパネルの掲示とパンフレットを設置。
- ・関係図書と海外ジオパークからの記念品を展示する棚を設置。
- ・他ジオパークの紹介充実のためコーナーを整備。
- ・来館者がより深く学べるようにルーペを購入。

成 果：以下のとおり各種事業の実施を通じて、隠岐の魅力の発信と隠岐に対する満足度の向上、各拠点施設への入館者の増加を図ることができた。

①海士町拠点施設管理運營業務

ジオラウンジで5件の企画展（巡回2件、独自2件、イベント1件）を開催し、そのうち2件をゴールデンウィークや夏休み中に開催したことにより多くの人においでいただいた。年間を通じて多くの来館者（4,394人）を迎えることができたが、このうちの1,171人にはEntôWalk（解説員付きの約40分間の散歩）に参加してもらい、ユネスコ世界ジオパークとしての隠岐について学ぶ機会を提供できた。

また、次年度の企画展第1弾（ゴールデンウィーク中に開催予定）に向けた企画および内容制作に着手できたとともに、EntôWalkに参加できない来館者のためにEntô周辺マップを次年度に配布できるように作成準備を行った。



②拠点施設企画展開催事業

隠岐自然館での「水の循環展」時に隠岐の島町内における水循環の状況、名水スポットの紹介、隠岐固有のオキタゴガエルの生体展示も合わせて行うことで住民の方々に水の重要性を伝えることができた。また、各種展示と連動した「観察会」を2回実施することで生物や地質への興味関心を広げることができた。リュウグウノツカイの剥製標本と深海タペストリーは常設展示とし、来館者に隠岐ジオパークの深海分野についても紹介ができるようになった。四島巡回企画展の開催により、環境保全や身近にできる環境のための取り組みについて紹介することができた。



③「地球時間の旅展」の研修会への参加

ジオパーク関係者や地質関連研究機関との意見交換や現地視察等により、それぞれのテーマに関し多角的な学びを得ることができた。

④展示品作成事業

リュウグウノツカイの剥製展示や深海タペストリーの設置により、来館者の興味関心を新たに隠岐の深海分野にも広げることができた。



岩石の基礎知識表作成によって、地質にあまり詳しくない来館者でも館内の展示岩石について学ぶことができたり、解説員の説明を通じて岩石に対する興味を引き出すきっかけをつくれるようになった。

⑤再認定審査での指摘事項への対応

自然館の館外でもジオパークに関する情報が得られるようになった。

(3) ガイド活用事業

目的：来訪者の満足度向上、滞在日数の増加、地域経済への波及、雇用機会の創出を目的として、レベルの高いガイド育成およびガイド情報露出率の向上を図る。

ゴール：ガイド付き旅行商品の造成と販売件数

内容：①ジオガイド活用事業

- ・2022年度に策定した中期計画に基づき、稼げるガイドの育成のためのスキルアップと新規認定ジオガイドの養成等を行う。
※交付金の減額に伴い、一部の研修についての講師や運営を事務局職員で行う。
- ・ガイド紹介WEBページの拡充および新たなマーケットの開拓を行う。

②ジオガイド交流事業

事務局とガイドとの意見交換・情報共有会の開催により意思疎通を図るとともにガイド間のネットワークの構築を行う。

実 施
状 況

①ジオガイド活用事業

●新規認定ガイド養成講座（2級ガイド養成）

17名（隠岐の島町3名、西ノ島町2名、海士町6名、知夫村6名）が受講

- ・ジオパーク基礎（6月6日島後4名、7日島前12名）
- ・ガイドとしての基礎（6月13日島後4名、14日島前12名）
- ・リスクマネジメント（6月20日島後4名、21日島前13名）
- ・隠岐の大地の成り立ち（11月7日島前11名、8日島後3名）
- ・隠岐の独自の生態系（11月14日島前11名、15日島後5名）
- ・隠岐の人の営み（12月24日島前11名、25日島後2名）
- ・筆記試験（2月6日島後3名、13日島前9名、28日島前4名）

●認定ガイド進級養成(進級審査)

既隠岐ジオパーク認定2級ガイドを対象に募集をし、5名の申込があった。2月9日～11日に進級審査(現地ツアーによる審査)を実施予定であったが寒波の影響により中止。

●スキルアップ研修

12月18日、19日に島後および島前において、全国通訳案内士の講師を招聘し、ガイドのスキルを高めるテクニックとして「ストーリーテリング」テーマとした研修会を実施。

12月18日 隠岐の島町(座学・実践) 8名

12月19日 海士町(座学) 11名・西ノ島町(実践) 9名

●ガイド紹介記事の拡充

地域内ガイド5名の紹介記事を作成のためインタビューおよび撮影を実施。WEBに記事をアップ。

②ジオガイド交流事業

事務局とガイドとの意見交換・情報共有会を実施

3月5日 島後（隠岐の島町）

3月12日 島前（西ノ島町）

成 果 ： ①ガイド活用事業

●新規認定ガイド養成講座

ガイド人材がコロナ禍や高齢化により不足してきている中であって、9名の合格者を輩出することができた。

●スキルアップ研修

実際のガイド業務に役立つ内容として参加者の満足度が高かった。

●ガイド紹介記事の拡充

隠岐の全般的な観光情報と絡めてジオガイドについての発信ができるようになり、ガイドが選ばれる確率をより高めることができた。



②ジオガイド交流事業

地域内のガイド同士による情報共有や意見交換の場を前年度と同じく設けたことで、悩みを持っていたガイドの課題解決に繋がった。また当機構職員とガイドとの情報共有や意見交換を行うことにより、当機構事業の方針や観光面に対してのガイド個人やガイド団体としての意見を聞き取ることができ、隠岐地域内のガイド体制の課題等を把握することができた。参加者からは、引き続き「事務局やガイド同士の意見交換の場つくってほしい」との意見もいただいた。

(4) 宿泊キャパシティマネジメント事業

目 的：5～10年後の宿泊施設の運営見通し計画の策定とオペレーションの改善によって、持続可能な観光地域づくりの実現を目指す。

ゴール：宿泊施設の客室稼働率、売上げアップ

内 容：宿泊事業者へのヒアリングによって運営計画を策定する。

- 実 施 状 況** : オペレーション改善のために、隠岐OTAへの新規参画支援と参画済み施設等への宿泊在庫（部屋数）出し支援を実施した。
宿泊施設の運営見直しについて、計画策定は行えなかったものの、各施設に機構職員が出向き（年3～5回）、助言や分析結果のフィードバックを行った。
- 成 果** : 各施設へのフィードバックについては、地域内の他施設と比較した「キャンセル率」等に対するデータの提示と改善策の提案を行ったが、「隠岐OTAに参画したことで予約が増えた」、「予約の電話を隠岐OTAに誘導できることでオペレーションが改善した」といった声を事業者からいただいている。
なお、隠岐OTAを通じた予約については、新たに8つの宿泊事業者に参加いただけたこともあって隠岐全体の宿泊在庫（部屋数）の6割弱が予約可能な状況となり、体験コンテンツに関しても海士町の人気コンテンツである「あまんぼう」や各島の「E-bike」等が予約可能となった。

（５）港・空港・二次交通対策

- 目 的** : 来島者の利便性向上による満足度アップ
- ゴール** : 各港・隠岐空港ターミナル内での統一感のある広報物の掲示
二次交通問題の改善
- 内 容** : ①4島の玄関口（隠岐空港含む）と本土側の玄関口（境港、七類）の
掲示物のデザインの統一によるブランディングを行う
②到着後の宿までの移動等の問題を解決するため、ライドシェアをはじめとする解決策の導入に向けた検討を行う。
- 実 施 状 況** : ①デザインの統一による隠岐のブランディングを図るとともに、動線をわかりやすくするために、西郷港フェリーターミナルの案内板（自然館への誘導・トイレ、エレベーター等ターミナル内各種施設への誘導）を新設・刷新した。
②到着後の宿までの移動等の問題を解決するため、地域づくり推進会議（8/5）において、2次交通のあり方について討議した。
- 成 果** : 統一感のある広報物の掲示や隠岐自然館への誘導サインの設置により、来島者の利便性向上を図ることができた。
2次交通問題については、課題意識の島ごとでの濃淡を強く感じた。一方で「レンタカーを予約せずに島を訪れて観光協会へ駆け込む」といった旅マエでの情報不足を原因としたトラブルは、共通して発生していることがわかった。次年度に向けては、旅マエでの情報不足を原因としたエラーを低減させていくために、「隠岐の島旅」等での情報発信を継続するとともに現状把握のための調査等を実施する予定である。

7. ツーリズム事業 （7,000千円）

（１）ツーリズム事業

- 目 的** : 旅マエの問合せと予約窓口の一元化によって来訪者の利便性を高めるとともに、隠岐OTAの充実による誘客促進と観光客の増加を図る。
- ゴール** : お客様の利便性向上と4島観光協会の業務効率化
- 内 容** : ①隠岐地域の旅マエの観光問合せと予約窓口（電話・メール）を一元化する。
②令和5年度に導入した宿泊・体験予約エンジンを普及し、地域版OTAの機能を強化する。
- 実 施 状 況** : ①予約コントロールセンター
問合せを「予約コントロールセンター」に集約するためにパンフレット等による周知を図った。また、顧客情報管理ツールと在庫管理ツールの最適化を図った。
②チャネルトーク（チャット）による対応

即時予約システム（BOKUN・プランメーカー）を2023年秋から導入したが、これによりチャットでの問い合わせ数が減少した。

2023年上半期総チャット数：2053件

2024年上半期総チャット数：1509件

③電話自動応答サービス（IVRy）による対応

着信件数はコロナ収束後の観光客の戻りに伴って増加傾向にあるが、各観光協会への転送割合は減少した。

成 果：問合せ対応の集約化が個人客を中心に徐々に進んでおり、各観光協会の業務効率化や業務負荷の軽減、来訪者の利便性向上に寄与できている。
また、問合せ媒体についてチャネルトークや隠岐OTAに誘導を図ったことにより問合せへの対応方法が強化でき、来島の機会損失を減らすことができた。
次年度も引き続き「予約コントロールセンター」に関する検討を行っていく、「隠岐の島旅」から漏れた宿泊・体験に係る予約案件の補完機能とともに、特に個人客からの総合問い合わせ窓口機能として発展させていく。

（２）ランドオペレーター事業

目 的：4つの島に渡ること等による情報の複雑さから、旅行会社が隠岐ツアー造成を見合わせることにならないように、地域内の仕入れ先（交通、昼食、入館等）の調整役としてランドオペレーター人員を配置し、地域事業者の収益の機会損失を防ぐ。

ゴ ール：旅行会社のツアーが設定（販売）、催行し、隠岐へのツアー客が増え、来島者の満足度が上がり島内事業者の収入が増えること。

内 容：地域内の交通手段、ガイド、昼食先、入館施設、体験などの仕入れ業務を旅行会社の代わりに行う。※宿泊施設は旅行会社の直接仕入れ
また、ツアーの集客状況、最終催行人数や行程を島内事業者に連絡するとともに、船舶や航空機の欠航等の緊急事態発生時には、ツアーに支障が来たさないための早急な対応を臨機応変に行う。

実 施：対応実績（4月～3月）

状 況

- ・旅行会社の募集型ツアー：集客人数 3,127名
設定本数333本→催行本数179本＝催行率53.8%
- ・FDAチャーター：集客人数 1,847名

以上を含む取扱い総人数 5,068名

成 果：当機構のオペレーターが取り扱った観光客数は全体（年間推定観光客数）の約1割を占め、地域事業者の収益の機会損失を防ぐ一助となり得た。
しかしながら、前年度比では95.1%（258名減）にとどまり、宿泊や交通等の受入キャパ減少によるツアーの設定自体の困難さが主要な要因の一つと考えられる。根本的な課題として関係機関による対策が急がれる。

8. 周辺産業への波及事業 （942千円）

（１）ジオ認定商品事業

目 的：地域の素材を利用した隠岐ジオパークならではの土産品の開発支援と、魅力ある商品パッケージの作成支援を行うことにより、販売促進による地域経済への波及効果を図る。

ゴ ール：年間販売額の増加

内 容：①ジオ認定商品に係る開発支援

- ・新規商品の認定
- ・既存認定商品の販売PR強化
（島内店舗に対して認定商品コーナーの設置依頼の実施）
- ・他媒体との連携

②パッケージに係る作成支援

- ・ 作成費への助成
 - ・ 情報提供（県事業「島根もの・ことカレッジ」との連携）
- 実 施 状 況** : ①新規商品の認定
- 審査会を実施し、3件（2社）の商品を認定した。
- 隠岐の木を使った製品群（ANALOG）
白バイ貝味付け缶詰、白バイ貝食べ比べセット缶詰（マキノ水産）
- ②パッケージ作成費助成
- 審査会を実施し、3件の商品を採用した。
- 島後の海藻類（天野治美）
キンニャモニャ饅頭（隠岐桜風舎）
サバ押し寿司（知夫里水産）

成 果 : ①新規商品の認定

「ジオパークのPR効果」と「実際に売れる商品」の視点を強化するために小売店のバイヤーや他ジオパークの専門員を審査員に迎えたことにより、認定商品がジオパークの価値発信だけでなく市場での競争力も備えるものとなった。また、認定事業者が審査会を契機として島外の小売店との商談機会を得ることができ販路拡大の一助ともなった。

②パッケージ作成費助成

採用されたうちの2商品は、パッケージがなかったものと販売検討段階のものであり、本助成によって商品の付加価値が向上したり販売開始のきっかけとなった。

また、1商品（キンニャモニャ饅頭）は、事業者から「以前より明らかに売れ行きが良くなった」との声が寄せられ、販促効果が認められた。



9. 保全事業 (391千円)

目 的 : 隠岐の地域遺産が、人間活動により損なわれることなく、保全、保護されている状態を目指す

ゴール : 地域資源の現状維持

内 容 : ①サイトカルテ更新

サイトの調査を関係機関と行い、保全保護の基礎となるサイトカルテを作成する。

②サイト看板の追加および更新

- ・ R4年度再認定審査の指摘を踏まえた、看板の追加および更新。
- ・ 劣化看板のデザイン、内容を含めた盤面の更新。

実 施 状 況 : ①サイトカルテ更新

「1. 基本計画策定事業（1）保全計画策定」を参照

②サイト看板

張替えについては、劣化状況を確認するため職員が4～5月に巡見し、内容更新のために各箇所情報のまとめとデザイン素案を地質研究員が作成したうえで施工した。

隠岐の島町 : ジオゲートウェイへの総合案内看板の新規設置

地質の分かりやすい紹介、ジオパーク視点からの見どころを紹介

「白島海岸の岩石」と白島海岸のトレイル案内看板の盤面更新

西郷港フェリーターミナル2階の総合案内看板の部分的更新（シール貼付）

西ノ島町：「横から見た摩天崖」、「鬼舞展望所」、「国賀海岸の天上界」の張替え
「国賀海岸の摩天崖」の旧看板撤去と新規設置
※町及び県の予算対応
国賀海岸国立公園の看板の部分的更新（シール貼付）
※環境省予算対応

海士町：「火山だった明屋海岸」の張替え
知夫村：安全警告看板（赤壁の遊歩道入り口・出口）の更新及び新規設置

成 果：看板の新設と更新により、隠岐ジオパーク全体の特徴、各サイトの価値・保護対象であることなどの情報を地域の方々や来島者に現地で提供することができ、隠岐の貴重な地域遺産に対する保全と保護への理解促進が図られるようになった。



10. 学術研究事業 (1,720千円)

(1) 調査・研究事業

目 的：隠岐に関する新たな知見の集積と得られた成果について、地域への還元・活用を図る。

ゴ ール：公表された研究数（学会発表または論文）の向上

内 容：①調査研究事業
②研究活動助成事業

実 施：①調査研究事業（事務局職員による調査研究）

状 況

- 調査研究の推進のために実施要項を作成。
- 各職員の調査・研究の推進
 - 隠岐島前のマグマシステム（地質研究員）
 - 隠岐における冷温帯種の低標高分布の要因解明(生物研究員)
 - 隠岐諸島の陸生ウズムシ（自然館学芸員）
- 学会等への参加
 - 日本地質学会（地質研究員）と日本貝類学会若手の会（学芸員）に参加。隠岐での発見を報告するとともに知識を習得。
- 隠岐片麻岩、黒曜石、大山石英閃長岩に関する島根大学との共同研究
大山石英閃長岩は島根大学の先生と共同で現地調査を実施。

②研究活動助成事業

継続研究 3 件、新規研究 4 件を採択。

●継続研究

所属	名前	テーマ	採択決定額
東京大学	秋澤紀克	島弧マントルの熱・化学進化・隠岐島産“本当の”マントル捕獲岩の例	198,000
国立科学博物館	甲能直樹	隠岐諸島西ノ島三度におけるニホンアシカ遺骸の発掘調査とその自然史・産業文化史的 position	200,000
京都大学	MAJEWSKI Katherine Maria	ユネスコジオパーク知夫里島における外来タヌキ(NYCTEREUTES PROCYONOIDES)の行動適応と社会認識に関する研究	100,000

●新規研究

所属	名前	テーマ	採択決定額
University of Otago, Dunedin, New Zealand	Shaun Ali Rizvi	隠岐島後および隠岐島前における孤立火山活動の要因	200,000
大阪公立大学	三浦大助	隠岐島前火山、苦鉄質・珪長質岩脈群に見られる卓越方位の形成メカニズム	200,000
島根大学	佐藤仁志	隠岐諸島におけるニホンアシカに関する研究	150,000
海食洞調査チーム	山西敏光	明暗の岩屋海食洞の測量、記載、成因調査	150,000

※「明暗洞調査チーム」は、悪天候やチームの都合で実施中途辞退。

●研究成果発表会

上記の継続研究及び新規研究に係る成果内容を地域に還元するために、採択者による研究発表会を3月に開催し、研究成果の共有および地域関係者との意見交換を行った。参加者：76名（現地17名、オンライン49名）
研究成果の要旨は、順次ウェブサイト上で公開する。



●隠岐に関連する調査研究に関する支援

サンプル採取に必要な地権者情報の確認や調査への同行など、依頼に応じた個別対応を実施

成 果：以下のとおり、隠岐に関する新たな知見の集積と成果を得ることができた。また、研究成果発表会を開催し地域への還元・活用を図った。

①調査研究事業（事務局職員による調査研究）

・隠岐島前のマグマシステム

マグマシステムを解明するにはまず、マグマの活動の順番を明確にする必要があるが、今回、焼火山粗面岩との接触部において、大山石英閃長岩が固結した後に焼火山粗面岩のマグマが上昇してきたことを示唆する産状を確認した。次年度はサンプルの薄片を作成し、その内容を日本地質学会で発表予定である。

・隠岐における冷温帯種の低標高分布の要因解明

冷温帯種が低標高域に分布する要因を明らかにするため、隠岐諸島内の12か所に温度・湿度計を設置し、継続的にデータを収集した。収集したデータのとりまとめは令和7年度に行う予定である。

・隠岐諸島の陸生ウズムシ

琉球大学との共同研究として隠岐諸島と大山に生息する調査を行い、6種類の未記載種（新種の可能性）を発見した。新種Ⅰ種については次年度に名称の公募を経て共同研究者の琉球大学の露木博士が論文を発表し、新種として登録される予定である。また、隠岐と大山との同じ個体について、いつの時代に移動したのかなど生物地理学的な視点で研究をすることで本土のつながりの関係性もみえてくる可能性がある。

②研究活動助成事業

隠岐地域において現地調査や文献調査を実施し、隠岐の自然・地質・文化に関する新たな知見の創出につながった。なお、ニホンアシカに関する研究成果は、『隠岐の文化』第42号に掲載された。

11. マネジメント事業 (18,974千円)

(1) 観光地マネジメント

目 的 : アドバイザーを招聘して、DMOとしての事業戦略や人事評価制度の構築を含めた事務局体制の強化を図り、魅力ある組織とする。

ゴ ー ル : 持続可能な組織体制の実現。

職員のキャリア形成を支援し、ワークライフバランスの取れた心理的安全性の高い職場環境の実現。

内 容 : ①DMO体制マネジメント

他地域の優良事例に関わりのあるアドバイザーを招聘し、組織の全体戦略設計や自主財源導入にむけての検討を行う。

②事務局体制強化

令和7年度からの人事評価制度導入及び給与制度改正のための制度設計を行うとともに、スムーズな新制度導入に向けての職員研修を実施する。

実 施 : ①DMO体制マネジメント

状 況 組織の全体戦略設計や自主財源導入に向け、毎月1回、アドバイザーを招聘した。

②事務局体制強化

職員個々の自己成長や組織全体の活性化を図るための人事評価（目標管理制度）を下半期（10月～3月）から導入した。評価者研修・目標設定研修のあと、期首に目標と成果を設定し、期末に自己と上長による評価を行った。

目標管理制度の成果向上を図るための内容改善、目標管理制度に加えて次年度から導入予定のコンピテンシー（能力発揮度）評価制度の実施内容、評価結果の給与反映のための制度改正について検討を行った。

成 果 : ①DMO体制マネジメント

機構の経営アドバイザーとして丸岡直樹氏から各事業についての戦略及び自主財源導入について懇切丁寧に指導や助言をいただいた結果、個別事業の進展だけでなくグループ横断的な事業の取組に繋がった。

②事務局体制強化

自分自身で設定した目標の達成を目指すことで成長へのステップが踏めるようになった。また、期首の目標設定及び期末の振り返り評価を通じて、上長と部下とのコミュニケーションが促進された。

(2) JTB隠岐プロジェクト

目 的 : 隠岐DMO及び隠岐4町村へJTB職員を派遣し、隠岐が一体となった観光地域づくりの実現を目的とする

内 容 : 隠岐の地域資源を活用したコンテンツ造成とブラッシュアップによる魅力ある旅行商品の販売につなげると共に、隠岐DMOと4町村の行政と観光協会、各事業者とのつなぎ役として事業展開を行う。

実 施 : 各町村の観光協会及び隠岐DMOに配属された5名のJTB職員が、島コンテンツ
状 況 拡販事業をはじめとした当機構の円滑な事業推進のために随時活動した。

成 果 : 事業者・観光協会・行政等の声を、PJTメンバーが地域に入り込んだことによって拾いやすくなり、機構として連携がとりやすくなった。
隠岐の地域資源を活用したコンテンツ造成とブラッシュアップによる魅力ある旅行商品の販売をPJTメンバーにより実施することができた。
修学旅行、社員研修旅行等の旅行商品について企画検討や試験的实施をJTB内各部署の支援を受けながら行うことができた。
DMOだけでは不可能であった観光庁の補助事業（DX推進事業・高付加価値化事業等）をJTB内各部署の支援を受けながら実施することができた。
JTB店舗でのオンラインセミナー、露出アップキャンペーン、現地研修など、PJTメンバーを通じることで隠岐のPR強化に繋がった。
隠岐地域での持続可能な観光地経営を推進していくために、PJTメンバーやJTB内の担当部署を通じ、地域内経済循環を高める事業体の検討に着手できた。

（３）部会運営事業

目 的 : 関係機関によって構成されている「観光部会」と「教育・環境部会」の開催による情報共有と意見交換により、事業の方向性の確認と関係機関が実施する事業との連携によって事業の効率化を図る。

内 容 : 2か月に1回の頻度で対面またはオンラインにより各部会を開催し、事業方針及び事業の進捗状況等を共有する。

実 施 : ①教育・環境部会

状 況 ●5月22日 オンライン

令和5年度教育及び環境事業の報告および令和6年度教育及び環境関連事業について共有

●7月23日 オンライン

令和6年度教育及び環境関連事業上半期進捗の報告・令和7年度教育及び環境関連事業計画案について共有および各グループに分かれて意見交換を実施。

●10月29日 隠岐の島町内

部会の研修事業として、保全計画事業である「隠岐の登山道保全と活用講座」の受講を計画していたが、悪天候により講座が別日での開催となったため取りやめ

●2月26日 オンラインにて実施

令和6年度教育及び環境関連事業下半期進捗の報告・令和7年度教育及び環境関連事業計画案について共有

②観光部会

●全体会 7月10日 西ノ島町内

「R5年度誘客状況・有人国境離島交付金事業」等について

●島前3町村各観光協会事務局長会議 11月8日 海士町内

「観光部会運営方針・予約CC経過報告」等について

●4町村各観光協会事務局長会議 1月15日 隠岐の島町内

「観光部会運営方針・予約CC経過報告」等について

成 果 : ①教育・観光部会

当機構の役割や各事業において今後どのような連携が可能かをすり合わせることができた。次年度は、天候不良により本年度で実施できなかった研修を実施するなどして連携をさらに強化していく。

②観光部会

おき得乗船券や予約CC等に関する事業方針を議論し、改善へと繋げることができた。課題や観光戦略を練っていく中で、観光協会が担う役割には4島ごとに濃淡があることを強く感じた。R7年度に向けては、役場の担当課をより巻き込む形で議論を進めていく。

（４）自主財源確保に向けた検討

- 目 的：将来的な自主財源の確保に向けて、財源の種類を検討や合意形成の方法、スケジュール等についての計画を策定する。
- ゴール：行政からの財源及び目的税導入により隠岐DMOとして確保する財源の最適なバランスを構築する。
- 内 容：①隠岐OTA等の隠岐DMOが取り組むビジネスの事業計画検討を行い、収益性の向上を図る。
- ②目的税導入に伴う財源としての試算を行い、事業以外に受益者負担に基づく財源確保について検討する。
- ③財源構成（自主財源、行政からの財源等）について検討するとともに、機構の方針や事業内容に関する行政への説明責任の高め方を検討する。
- 実 施 状 況：①収益性の向上
- 「隠岐OTA事業」による収益性の向上
宿泊施設事業者に対して、有効な打ち手等についての意見交換を行いながらアドバイスをを行うことで、隠岐OTA事業の収益性向上につなげた。
 - 「ランドオペレーション機能」の統一による各所との連携強化及び業務効率化
統一に向けて令和10年度までのスケジュールを検討した。また、隠岐OTAと予約コントロールセンター（＝隠岐諸島観光問い合わせ窓口）との連携を進めるとともに令和6～8年度のTO DOを洗い出し、観光協会及び島内旅行会社に提案を行った。
 - 「ふるさと納税」の中間管理事業者参入による収益確保の検討
隠岐4町村への参入時の事業性についてAMAホールディングスと意見交換を行い、海士町で3億円、隠岐の島町で2～3億円の収入が見込めそうであることが分かった。隠岐の島町が募集するR7年度からの中間管理事業者についてAMAホールディングスとの連携による申請を検討した。
 - 「旅先納税」の中間管理事業者参入による収益確保の検討
隠岐圏域全体への導入について前年度から引き続き4町村と検討・協議を行った結果、令和7年4月中旬から導入することになった。
※旅先納税（隠岐旅納税）
旅行者が、旅行前や旅行中に隠岐4町村のいずれかに納税することで電子クーポン（おき旅コイン）を返礼品として取得し、隠岐地域内の飲食店、宿泊施設、観光体験等の加盟店で 사용할 ことができる。
当機構は、プロモーション並びに事業の一部管理、電子クーポンの発行等業務、加盟店管理・精算を実施することで、寄附額の7.1%の手数料を得る。
- ②目的税導入に伴う財源試算と受益者負担に基づく財源確保の検討
目的税（入島税、宿泊税）に関し、4町村長と専門家等との意見交換を9月24～25日に実施した。
隠岐4町村で宿泊税を導入した場合の収入額を試算した。
- ③財源構成の検討及び行政への説明責任の向上検討
当機構の理事を交えて、「持続可能な観光地域づくりに向けた勉強会」を島後会場と島前会場で開催した。
講師：河田敦弥氏（観光庁観光戦略課長）
専門家：池知貴大氏、丸岡直樹氏（バリューマネジメント株）
1/20 島后会場（隠岐の島町）参加者：22名（うちオンライン2名）
1/21 島前会場（海士町）参加者：17名

成 果 : 自主財源確保に向けての財源検討、合意形成方法、スケジュール等についての計画は策定できなかったが、機構の収益向上及び財源確保について以下のとおり実行や検討を進めることができた。

①収益性の向上

●「隠岐OTA事業」による収益性の向上

参画事業者も増えており、以下のとおり隠岐OTAが徐々に認知されて来た。

- ・目標売上5,000万円（＝手数料約300万円）対して約8割の売上を達成した。
- ・宿泊予約に占める隠岐OTAの利用割合が、R5年度15.4%→R6年度29.9%と約2倍に増えた。

※大手旅行予約サイト(楽天トラベル・じゃらん等)

R5年度30.3%→R6年度28.8%（微減）

- ・隠岐OTAからの予約が、隠岐の宿泊在庫（部屋数）の約6割に対してできるようになった。

●予約機能の統一による各所との連携強化及び業務効率化

各種業務（予約コントロールセンターとの連携強化、新電話番号への切り替え、AIチャットボットの導入）をR7年4月1日からスタートさせることができた。

●「ふるさと納税」の中間管理事業者参入による収益確保の検討

隠岐の島町の中間管理事業者については募集要件に合致しにくい面があり、申請を見送った。今後とも隠岐全域での参入について検討していく。

●「旅先納税」の中間管理事業者参入による収益確保の検討

R7年4/22にスタートできた。地域内の加盟店は徐々に増えており、利用者（納税者）の増加にむけて次年度はプロモーションに注力していく。

②目的税導入に伴う財源試算と受益者負担に基づく財源確保の検討

本年度は勉強会に留まったが、多様なステークホルダー間の合意形成を図るために、目的税を「何に」「誰が」使い、どのように管理するか等の検討を行いながら、隠岐4町村内への目的税の導入可能性を追求していく。

③財源構成の検討及び行政への説明責任の向上検討

4島での横断的な財源確保、機構としての適正な財源構成、機構の方針や事業内容に関し、各島の重要なステークホルダーに対して情報共有と議論の場を設定できた。

（５）隠岐地域における持続可能な観光地経営に向けた検討

目 的 : 地域内での経済循環、他産業への波及、地域資産の持続性向上を目指す

ゴ ー ル : 地域全体でのエコシステム（企業間や企業と顧客との連携）の形成の取組に繋がる事業について、令和7年度を目途として立ち上げる。

内 容 : 地域内経済循環を高める事業体についての検討

①課題整理

②過去の取組整理

③要件整理（事例調査含む）、収支想定

④ニーズ調査（仕入先、納入先）

⑤アクションプラン作成（体制、計画）

実 施 状 況 : 地域内における飲食提供機能（セントラルキッチン）とリネンサプライ（リネン洗濯工場）に対するニーズ把握のため、隠岐4島の関係事業者アンケートを実施し、その結果と考察については次のとおりであった。

●飲食提供機能（セントラルキッチン）

事業者へのアンケートとヒアリングでは強いニーズは見られなかったものの、ほぼ全ての事業者に共通する人手不足や季節変動などの課題から、潜在的・将来的なニーズはあるものと考えられる。来島者に対して地域産品を提供したいという思いは事業者側にも強くあるため、セントラルキッチンを持続可能なビジネスモデルとして設計し、サービスを提供することができれば、利用事業者は増えると想定できる。

●リネンサプライ（リネンクリーニング工場）

事業者へのアンケート、ヒアリングでは、セントラルキッチンと同様に強いニーズは見られなかったものの、ほぼ全ての事業者に共通する人手不足やコスト面での課題から、潜在的・将来的なニーズはあるものと考えられる。回答があった事業者の多くは島外の事業者に委託をしており、コスト面での懸念の声が多く寄せられた。4島内で利用できるリネン事業者について費用が抑えられる、手間が省ける、といった理由で、一定の需要があることから導入する事業者が増えると想定できる。また、清掃業者への需要も高いことが傾向として見られるので、リネン事業と併せて検討し、事業の収益化を図る方法も検討余地があると考えられる。

成 果： セントラルキッチンとリネンサプライについて、関係事業者の現状や課題を把握できたことは収穫だった。これらをもとに以下の方針を得ることができた。

既存の施設・設備や人材の活用、自治体との連携や補助金の活用など最適な運営形態の詳細な検討を今後行ったうえで、初期投資額や運営コストを抑えた小規模な事業形態でスタートさせ、地域の事業者や生産者及び来島者のニーズや課題を把握していきながら事業戦略の改善・実行を繰り返し継続していく手法が現実的と考えられる。